

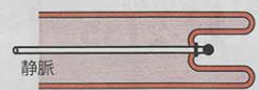
おしえてドクター 「下肢静脈瘤治療のいま」



下肢静脈瘤の症状を説明する坂田院長

下肢静脈瘤の外科手術

■ストリッピング (静脈剥去) 術



付け根部分にある静脈を結紮 (高位結紮) し、切除する。足の付け根と足首の部分など2カ所を切開し、静脈瘤のある伏在静脈の血管内にワイヤを挿入。静脈とワイヤを結び、ワイヤを引き抜くことにより静脈を抜き取る手術。

■焼灼術

1. レーザー焼灼術

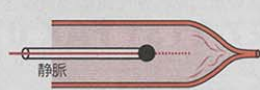
高位結紮術を行わず、血液の逆流を起こしている伏在静脈に、細いレーザーファイバーを入れ、レーザー照射。レーザー光は水や血液 (ヘモグロビン) に吸収され、光エネルギーを熱に変換する。熱で静脈を焼いて閉塞させる血管内治療。波長980ナノメートルの「ベアファイバー」と1470ナノメートルの「ラジアル2リングファイバー」は保険適用。

① 1470ナノメートル・ラジアル2リングファイバー



水によく吸収される波長1470ナノメートルを使うことで静脈だけを焼くことができ、2個のアリウムで焼きムラが起こらない最先端の治療法。

② 980ナノメートル・ベアファイバー



真っすぐに切られたファイバーの先端1点から照射された980ナノメートルの波長は、血中のヘモグロビンに吸収され発熱する。熱は先端だけで焼きムラなどが起こる。

2. 高周波カテテル焼灼術



カテテルの先端7センチの筒状の発熱部に巻かれたコイルに高周波電流を流すことによってコイルが発熱。筒に接触している静脈が閉塞する。また、高位結紮術は行わない。

■硬化療法

静脈瘤に直接、硬化剤を注入し、患部の静脈を固める方法。血液が流れなくなった静脈は徐々に退化し、無くなる。

■静脈結紮術

静脈逆流が強いところの静脈をピンポイントで縛る。伏在静脈は取らないため、再発の可能性は高い。軽症、高齢や、ほかの重篤な疾患、抗凝固剤を使用している人に適している。

下で、弱中や中庄、強圧があります。市販品ありますが、単に全体を締め付ける靴下や弱圧でよいに強圧を穿つ人がいます。動脈が詰まり血液の流れが悪い人や足にむくみのある人は、靴下の着用は症状を悪化させますので要注意。中庄、強圧は医師の処方を受けるのが安全です。

外科治療法では、坂田 大きく分けると伏在静脈を「抜く」ストリッピング術、レーザー、高周波焼灼術、縛る「結紮術」、固める「硬化療法」があります。これは局所麻酔をするので手術中の痛みはありません。なかでも、静脈を「焼く」治療法で今年健康保険適用された

体への負担軽減

波長1470ナノメートルのレーザー光治療が健康保険適用

手術でOOLを保つ
下肢静脈瘤とは、坂田 心臓から出る血液は、静脈を通じ心臓に戻ります。二足歩行の人間の心臓は、足から約1メートルの高さにあり、重力に逆らって血液をくみ上げています。くみ上げるのは第1の心臓といわれる筋肉ポンプ。この時、静脈が拡張しないように守るのが筋膜と薄い皮膚です。しかし、足の付け根などにある血

管の腫れやむくみ、こむら返りなど、下肢静脈瘤の症状で悩む人は多い。それに対して静脈を「抜く」「焼く」などの外科手術で、OOL (生活の質) を保つ方法がある。今月、波長1470ナノメートル (億分の1) のレーザー光を使った治療が健康保険適用になり、手術費用は約4万5千円に。従来のレーザー治療に比べ、手術後の痛みや腫れが少なく、患者の体への負担も軽減される。大阪市中央区の坂田血管外科クリニックの坂田雅宏院長に治療法などを聞いた。

坂田血管外科クリニック 坂田雅宏院長に聞く

液の逆流を防ぐ静脈弁が壊れ、皮膚などが血管の拡張を防げなくなると血液が足にたまり、下肢静脈瘤が起きます。静脈弁が壊れる原因は、人間の圧迫の十分な薄い皮膚という構造的な欠陥と年齢、長時間の立ち仕事、妊娠、遺伝子的な要因が考えられます。

初期は逆流する血液が少ないので、症状はあまり出ません。逆流が増える、筋肉ポンプのくみ上げが追いつかなくなると、血液が足の下の方にたまってきます。そうなると、足の腫れやむくみ、こむら返りの症状が出てきます。放置すると、さらにくみ上げが追いつかなくなり、足の皮膚に穴があいたり潰瘍が起り重症化します。

医師の処方では靴下着用、進行を抑える方法や手術後の再発防止には、坂田 弾性ストッキング (靴下の着用) で、足先からふくらはぎに向けて徐々に圧が弱くなるように調整されている靴

また、覆っている状態では、足は心臓の高さと同じになり、重力に逆らって血液を戻す必要がありません。靴下を着用しても効果はあまりありません。ただ、他の病気があり、治療上、医師の処方や就寝時に靴下を着用する場合はあります。

波長1470ナノメートルのレーザー光を使った「ラジアル2リングファイバー (2リング)」が注目されています。従来の980ナノメートルの「ベアファイバー」は、レーザー光をファイバーの先端にあるコイルに反射させて血管内面を2回焼きます。これにより静脈は均一に焼かれ、焼きムラは起りません。このため「ベア」に比べ、術後の痛みや腫れが格段に少なくなっています。また、手術できる部位は「ベア」も同じですが、太ももの太い伏在静脈です。膝から下のあ

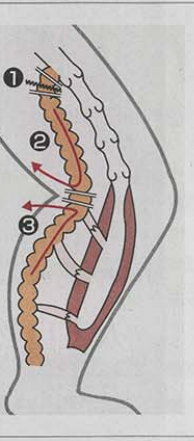
くみ上げが追いつかなくなり、足の皮膚に穴があいたり潰瘍が起り重症化します。下肢静脈瘤は怖い病気です。

また、覆っている状態では、足は心臓の高さと同じになり、重力に逆らって血液を戻す必要がありません。靴下を着用しても効果はあまりありません。ただ、他の病気があり、治療上、医師の処方や就寝時に靴下を着用する場合はあります。

また、覆っている状態では、足は心臓の高さと同じになり、重力に逆らって血液を戻す必要がありません。靴下を着用しても効果はあまりありません。ただ、他の病気があり、治療上、医師の処方や就寝時に靴下を着用する場合はあります。

また、覆っている状態では、足は心臓の高さと同じになり、重力に逆らって血液を戻す必要がありません。靴下を着用しても効果はあまりありません。ただ、他の病気があり、治療上、医師の処方や就寝時に靴下を着用する場合はあります。

また、覆っている状態では、足は心臓の高さと同じになり、重力に逆らって血液を戻す必要がありません。靴下を着用しても効果はあまりありません。ただ、他の病気があり、治療上、医師の処方や就寝時に靴下を着用する場合はあります。



ストリッピング術

- ① 高位結紮
- ② 静脈剥去
- ③ 静脈瘤切除

血管焼灼術

- ①と②の代わりに静脈内にカテテルを入れ、血管内より静脈を焼灼します。
- ③は剥去術と同様に行います。